

2014 年 4 月 23 日

各地方自治体議員のみなさまへ

戦争をさせない 1000 人委員会

事務局長 内田雅敏

「戦争をさせない 1000 人委員会」への参加・賛同のお願い

拝啓 時下、ますますご清祥のことと存じます。

さて、安倍政権はこれまで「集団的自衛権の行使は憲法に反する」としてきた内閣法制局長官に、行使容認を自認する小松一郎元フランス大使を抜擢するという異例の人事によって「集団的自衛権」行使容認への道を開こうとし、また私的諮問機関である「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会（安保法制懇）」からの報告をこの連休明けの5月中旬にも受けて、政府の集団的自衛権に関する憲法解釈の変更に向けた、自民党内協議、与党内協議に入っています。

自らが特攻兵であった作家の城山三郎さんが「戦争に負けて得たものは憲法だけ」と述懐していますが、「日本国憲法」の平和主義が、戦後これほどまでに危機にさらされ、「戦争をする」ことが現実味を帯びたことはなかったでしょう。

このような状況の中で、憲法学者の奥平康弘さんや作家の大江健三郎さんら 100 人を超える呼びかけ人（別紙参照）は、「日本国憲法の理念をないがしろにし、この日本を、戦争をする国へとつくりかえようとするあらゆる動きに反対します。個人が個人として尊重され、平和に生きることでできる社会をつくることを求めます」として、3 月 4 日、「戦争をさせない 1000 人委員会」を発足させました。3 月 20 日には、日比谷野外音楽堂に約 4000 人を集めて出発集会を開催しました。今後、全国に「戦争をさせない 1000 人委員会」の運動に賛同する市民や平和団体・労働組合などによる地域組織を立ち上げるとともに、全国署名の展開と市民への運動への参加呼びかけに全力を挙げていきたいと考えています。

つきましては、思いを同じくする全国の自治体議員のみなさまに「戦争をさせない 1000 人委員会」への参加と運動への連帯を、下記の通り要請させていただきます。

ご多用のところたいへん恐縮ですが、ぜひご検討いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

①「戦争をさせない 1000 人委員会」への会員登録をお願いします。

※別紙、振込用紙に必要事項を記入の上会費の納入をお願いします。払込取扱票の確認をもって会員登録の完了といたします。

※参加登録には、氏名、肩書き、住所、連絡先が必要です。連絡先としてメールアドレスか

ファックス番号を必ず記載して下さい。

②「戦争をさせない1000人委員会」より、種々のご連絡を差し上げます。

※ご記載のメール、またはファックスへのご連絡を基本とします。

③ぜひ周辺の方々へ、「戦争をさせない1000人委員会」運動をご紹介いただけますよう、お願いします。

※必要となる宣伝資材（チラシ、パンフレット、署名用紙など）をご用意しておりますので、ご連絡ください。

<郵便振替>

口座記号番号 00190-1-513413

口座名称 戦争をさせない1000人委員会

(センソウヲサセナイセンニンイインカイ)

<事務所住所>

101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-15 塚崎ビル 3 階

TEL : 03-3526-2920 FAX : 03-3526-2921

<URL および Mail address>

<http://anti-war.info>

Mail address : info@anti-war.info

上記事務所に連絡が取れない場合は、下記連絡先へお願いします。

連絡先

フォーラム平和・人権・環境（平和フォーラム）

原水爆禁止日本国民会議

事務局長 藤本 泰成

「戦争をさせない1000人委員会」事務局長代行

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

連合会館1階

電話 : 03-5289-8222 FAX : 03-5289-8223

「戦争をさせない1000人委員会」アピール

いま、日本はいままでとまったくちがった国に姿をかえようとしています。わたしたちが願い、誓ってきた、人間と人間が殺し合う戦争はもう絶対にしない、国際的な紛争は粘り強く話し合いで解決する、という人類普遍の理想を、安倍政権は、なんの痛みも感じることなく捨て去ろうとしています。

東洋の海に浮かぶ島国は、かつて無謀な政府のもとで背伸びをして隣国を侵略し、さらに世界を相手にして戦い、他国で2000万人以上、自国で310万人とも言われる尊い人命を奪い、深く人間の尊厳を傷つけました。

わたしたちの軍隊が行った侵略戦争は、沖縄戦をはじめ東京、大阪など各都市への空爆とヒロシマ、ナガサキへの原爆投下をもたらし、その傷跡は戦後69年たってもなお、いまだ癒えていません。

焼け跡の中から生まれた「日本国憲法」は、このような過ちを二度と繰り返さない、という心からの誓いによる平和主義を基調としています。この69年間、日本は一度も戦火を交えることなく、武器によって殺しも殺されもせず、世界に平和を訴え続けてこられたのも、この平和憲法が世界で支持されてきたからです。

ところが、いま、政府は愚かにも、人類の英知というべき平和憲法を廃棄し、「国防軍」を創設することを公然と語りはじめました。そして、「戦争のできる国」をめざして、これまで憲法違反としてきた「集団的自衛権」行使の合憲化をはかろうとしています。そのため内閣法制局の長官を交代させ、さらに、アメリカに倣った「国家安全保障会議」（日本版NSC）を創設し、ろくに国会で審議をしないまま、秘密国家とすべく重罰を科す「特定秘密保護法」制定を強行しました。また、沖縄の犠牲を解消することなく名護市辺野古への新基地建設も強行しようとしています。

そして、消費税増税を尻目に防衛予算を増強し、本格的な戦争準備のために、南西地域の防衛体制の強化と水陸機動団の創設、航続距離の長いオスプレイや空中給油機、水陸両用戦車、無人偵察機などの導入を図っています。そればかりか、「武器輸出」を拡大させようとしています。

このように、戦争のための準備がすすめられています。昨年暮の安倍首相の抜き打ち的な靖国参拝は、政教分離の違反であるばかりでなく、自衛隊員の「戦死」を想定したものとも言えます。また、原発政策の基となる原子力基本法にも、宇宙開発政策の方針を定める宇宙基本法にも、「安全保障に資する」という文言が盛り込まれました。

ハードとソフトの両面からの戦争体制が整備されていることに、わたしたちは深い疑念と懸念を抱き、いまここで、未来も平和であり続けたいと願う人びととともに、あらゆる行動を起こすことを呼びかけます。

平和のうちに生きたいとする願いは、世界の人びとの共通のものです。わたしたちはそれをさら広げるために、憲法九条を空文化し、集団的自衛権の行使を認め、戦争準備をすすめる秘密国家をつくろうとする政府への批判活動と行動をつよめます。

2014年3月4日

呼びかけ人：108人

アーサー・ビナード（詩人） 青井未帆（学習院大学教授） 愛敬浩二（名古屋大学教授）

赤川次郎（作家） 秋葉忠利（元広島市長） 雨宮処凛（作家・活動家） 飯島滋明（名古屋学院大学准教授） 飯田哲也（環境エネルギー政策研究所所長） 池田香代子（翻訳家） 石坂啓（マンガ家）

伊藤真（弁護士・伊藤塾塾長） 上野千鶴子（社会学者） 鵜飼良昭（弁護士・日本労働弁護団会長）

浮田久子（平和の白いリボン行動・藤沢） 内田雅敏（弁護士） 内橋克人（経済評論家）

内海愛子（恵泉女学園大学名誉教授） 梅林宏道（ピースデポ特別顧問） 浦田一郎（明治大学教授）

永六輔（放送作家） 大江健三郎（作家） 大熊政一（弁護士・日本国際法律家協会会長）
 大田昌秀（元沖縄県知事・沖縄国際平和研究所理事長） 奥平康弘（東京大学名誉教授）
 小山内美江子（脚本家） 小田川興（元朝日新聞編集委員） 落合恵子（作家） 海渡雄一（弁護士・元日弁連事務総長） 香川京子（俳優） 鎌田慧（ルポライター） 香山リカ（精神科医）
 河合弘之（弁護士・脱原発弁護団全国連絡会共同代表） 川野浩一（原水爆禁止日本国民会議議長）
 木村朗（鹿児島大学教授） 金城実（彫刻家） 熊谷博子（映像ジャーナリスト） 組坂繁之（部落解放同盟中央執行委員長） 倉本聰（脚本家・劇作家・演出家） 古今亭菊千代（噺家・真打）
 古関彰一（憲政史家） 小橋孝一（日本キリスト教協議会議長） 小林緑（国立音楽大学名誉教授）
 小森陽一（東京大学教授） 坂田雅子（映画監督） 坂本洋子（フリージャーナリスト・NPO法人民法改正ネットワーク（mネット）理事長） 坂元良江（テレビプロデューサー） 佐々木猛也（弁護士）
 佐高信（評論家） ジェームス三木（脚本家） 篠原義仁（弁護士） 清水雅彦（日本体育大学教授）
 辛淑玉（「のりこえねっと」共同代表） 新谷のり子（歌手） 進藤榮一（筑波大学名誉教授）
 菅原文太（農業生産法人代表） SUGIZO（音楽家・ミュージシャン） 鈴木力（社団法人「マガジン9」代表理事） 瀬戸内寂聴（作家） 高遠菜穂子（イラク支援ボランティア） 高橋哲哉（東京大学教授）
 高畑勲（アニメーション映画監督） 高原孝生（明治学院大学教授） 高良鉄美（琉球大学教授）
 田中優子（法政大学教授） 谷山博史（日本国際ボランティアセンター（JVC）代表理事） 崔善愛（ピアニスト） 辻山幸宣（公益財団法人地方自治総合研究所所長） 土屋源太郎（「伊達判決を生かす会」共同代表） 土山秀夫（元長崎大学学長） 坪井直（被爆者） 富山妙子（画家） 鳥越俊太郎（ジャーナリスト） 中野麻美（弁護士・日本労働弁護団常任幹事） 中原道子（VAWW RAC「戦争と女性への暴力」リサーチ・アクション・センター共同代表） 中山千夏（作家） 西尾漢（原子力資料情報室共同代表） 西谷敏（大阪市立大学名誉教授） 西野瑠美子（VAWW RAC共同代表） 原和良（弁護士）
 林郁（作家） 樋口恵子（評論家） 福山真劫（フォーラム平和・人権・環境 代表） 舟越耿一（長崎大学名誉教授） 古川純（専修大学名誉教授） 前田朗（東京造形大学教授） 前田哲男（ジャーナリスト） 松浦悟郎（日本カトリック正義と平和協議会会長） 南典男（弁護士・日本民主法律家協会事務局長） 宮城泰年（聖護院門跡門主） 宮子あずさ（看護師・著述業） 宮里邦雄（弁護士・日本労働弁護団元会長） 本島等（元長崎市長） 本橋成一（写真家） 森詠（作家） 森達也（ノンフィクション作家） 矢崎暁子（弁護士） 山内敏弘（憲法研究者・一橋大学名誉教授） 山口二郎（北海道大学教授） 山崎朋子（ノンフィクション作家） 山田真（小児科医） 山田洋次（映画監督）
 山中悦子（NPO法人「草の根援助運動」） 由井晶子（フリーライター） 湯川れい子（音楽評論・作詞家） 吉岡しげ美（音楽家） 吉岡達也（ピースボート共同代表） 吉川勇一（「市民の意見30の会・東京」代表） 渡辺美奈（アクティブ・ミュージアム「わたしの戦争と平和資料館」（wam）事務局長）
 和田春樹（東京大学名誉教授）

賛同：

安藤博（「非暴力平和隊・日本」事務局長） 宇沢弘文（東京大学名誉教授） 笹本潤（弁護士・平和への権利国際キャンペーン・日本実行委員会） 住沢博紀（日本女子大学教授） 高石ともや（フォークシンガー） 高野孟（ジャーナリスト・「インサイダー」編集長） 高部優子（映像監督） 田中宏（一橋大学名誉教授） 豊下楯彦（元関西学院大学教授） 西谷修（思想史研究） 二瓶久勝（国鉄闘争を継承する会代表） ピーター・バラカン（ブロードキャスター） 山崎公士（神奈川大学教授）
 吉永小百合（俳優）

※賛同については3月時点のリストです。その後の増加分は現在整理中につき、今後ウェブサイトなどに掲載させていただきます。

憲法を破壊する「集団的自衛権」行使容認反対！ 一人ひとりが尊重される、平和な社会をつくらう！

戦争をさせない1000人委員会

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-15 塚崎ビル3階
http://anti-war.info mail:info@anti-war.info
TEL: 03-3526-2920 FAX: 03-3526-2921

私たち「戦争をさせない1000人委員会」は、戦争への道を突き進む政府の暴走を阻止し、一人ひとりの平和に生きる権利を守りぬくために、全国的な運動を展開していきます。そのためには、皆様のご支援・ご協力が不可欠です。

現在の危機的状況を打破するために、皆さんが「戦争をさせない」ひとりとして、とりくみを始めていただけますよう、心よりお願い申し上げます。

〈「戦争をさせない1000人委員会」呼びかけ人から〉



鎌田 慧さん (ルポライター)

「戦争をさせない1000人委員会」は、単に1000人だけでやるということではなく、全国各地に「1000人委員会」の組織をつくってほしいのです。それが10個あれば1万人、1000個あったら100万人というふうなイメージで考えていただきたい。

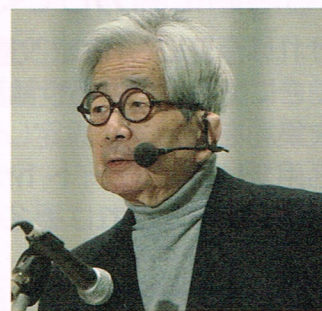
ネットワークを広げ、絶対に戦争をさせないという決意をしたい。



落合 恵子さん (作家)

私がこの国に願うことは、いま安倍政権が向かおうとしていることではなくて、平和に貢献してほしいということです。

武器製造ができる国、武器輸出ができる国、原発輸出ができる国ではなく、永遠に子どもが徴兵されない国であることを望みますし、望んでいるだけでは仕方がないので、可能なかぎり自分ができる行動を起こして行こうと思います。



大江 健三郎さん (作家)

「私には生き直すことはできない。しかし／私らには生き直すことができる」。

私はもう老年です。私は生き直すことはできない。しかし、あなた方は、生き方をかえることができる。あなた方とともに、私も、自分の生き方をかえることができるという希望を持つことができる。そして、平和憲法を持ち堪えて、明日の生き方をつくりだそうというのが私の希望です。

私たちとともに「戦争をさせない1000人委員会」運動にとりくんでください

★「戦争をさせない1000人委員会」に参加・賛同してください

「戦争をさせない1000人委員会」の運動への参加・賛同をお願いします。賛同個人 1 口 1000 円・団体 1 口 3000 円、複数口のカンパを歓迎します。下記の払込取扱票をご利用ください。

払込取扱票

00	口座記号		口座番号 (右詰で記入)		金額	千	百	十	万	千	百	十	円
	0	0	1	9	0	1			5	1	3	4	1
加入者名	戦争をさせない1000委員会												
通 信 欄	※ 戦争をさせない1000人委員会に賛同します 個人 1 口 1000 円 × _____ 口 / 団体 1 口 3000 円 × _____ 口 肩書き・団体名 () お名前の公開 可・不可 Mail または Fax : (ご案内をお送りします)												
依頼人	〒 _____ おとこ ※ おなまえ (ご連絡先電話番号 _____)												
日 附 印													

振替払込請求書兼受領証

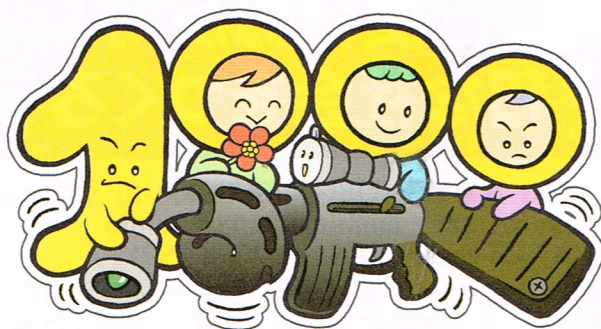
口座記号番号	0 0 1 9 0 1												
加入者名	戦争をさせない1000人委員会												
金額	千	百	十	万	千	百	十	円					
おなまえ													
依頼人	様												
料 金	(消費税込み) 日 附 印												
備考	円												

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
切り取らないでください。

◎ 氏名は楷書で、必ずフリガナをつけてください。
◎ 住所やご連絡先は正確に書いてください。(公表することはありません)

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)

これより下部には何も記入しないでください。



戦争をさせない 1000人委員会

Anti-War Committee of 1000

ご参加・ご協力お願いします！

★署名活動に協力してください

早ければ今夏にも「解釈改憲」と閣議決定による「集団的自衛権行使」容認が行われることが予想されます。この動きに断固反対する世論醸成に向け、安倍首相に対する「戦争をさせない全国署名」運動をすすめます。第一次集約を5月末に設定します。

→署名用紙はウェブサイト <http://anti-war.info/shomei> からダウンロードできます。

ご連絡をいただければ署名に必要な資材(署名用紙、チラシなど)を必要枚数お送りします。

★日本全国に「1000人委員会」を！

「1000人委員会」は単に「1000人集める」ことが目的ではありません。あらゆる地域・職場に「1000人委員会」を立ち上げ、日本全体を「1000人委員会」のネットワークでカバーすることをめざします。

署名活動の推進だけではなく、地域における集会・学習会などにもとりこんでください。

どんな小さな集まりでも構いません。なお、立ち上げにあたっては事務局までその旨ご連絡いただければ幸いです。

★集会に参加してください

「1000人委員会」は国会情勢などを踏まえ、適宜中央集会などの行動を呼びかけていきます。安倍政権に対し、「戦争をさせない」という声をあげましょう。情報は随時ウェブサイト(<http://anti-war.info>)に掲載しますのでご覧ください。

(ご注意)

・この用紙は、機械で処理しますので、口座記号番号及び金額を記入する際は、枠内にはっきりとご記入ください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

・この用紙は、ゆうちょ銀行または郵便局の払込機能付ATMでもご利用いただけます。

・この払込書をゆうちょ銀行または郵便局の渉外員にお預けになる場合は、引換えに預り証等を必ずお受け取りください。

・この用紙による払込料金は、ご依頼様が負担することとなります。

・ご依頼様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。

・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙

3万円以上
貼 付

印

この場所には、何も記載しないでください。

憲法を破壊する「集団的自衛権の行使」容認に反対します 戦争をさせない全国署名

内閣総理大臣 安倍晋三 様
衆議院議長 伊吹文明 様
参議院議長 山崎正昭 様

【趣旨】

これまで、ほとんどの戦争は「自衛のため」という名目で行われてきました。「侵略のため」といって始められた戦争はありません。だから、1946年の衆議院本会議で、当時の吉田茂首相は、憲法9条の平和主義について「直接には自衛権を否定しておりませぬが、第9条第2項において一切の軍備と国の交戦権を認めない結果、自衛権の発動としての戦争も、また交戦権も放棄したのであります」と答弁したのです。

しかし、その後、自民党を中心とする歴代の政権は、憲法解釈を転換し、個別的自衛権はあるけれども憲法9条によって集団的自衛権は認められないという解釈をとってきました。つまり、日本の「自衛」は認められるけれども他国の戦争に加担する「他衛」は認められないということです。

今度、安倍首相は自民党の先輩首相に反してまでも、集団的自衛権行使の容認に踏み出そうとしています。これは明らかに日本を、戦争をする国にしようということです。それによって憲法9条を空文化することをねらっており、私たちはその愚行に強く反対します。

また、特定秘密保護法の強行採決は、市民から情報を隠し、戦争をする国への体制固めに他なりません。

「戦争で得たものは憲法だけだ」。これは元海軍少年水中特攻兵だった作家の城山三郎さんの遺した名言です。あらゆるものを破壊し、人びとから奪い去る戦争を、二度としないという決意が、日本国憲法には込められているのです。

私たちは、日本国憲法の理念をないがしろにし、この日本を、戦争をする国へとつくりかえようとするあらゆる動きに反対します。個人が個人として尊重され、平和に生きることのできる社会をつくることを求めます。

【要請項目】

1. 「解釈改憲」などによる集団的自衛権行使容認を行わず、憲法9条の理念を活かすことを求めます。
2. 戦争参加をすすめるあらゆる立法と政策に反対します。

請願者

名 前	住 所

呼びかけ団体/送り先	取り扱い団体
戦争をさせない1000人委員会 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-15 塚崎ビル3階 電話03-3526-2920 mail:info@anti-war.info	

戦争をさせない全国署名に ご協力お願いします

安倍政権は、昨年12月、多くの人々の大きな反対の声をねじ伏せ、憲法の三原則である「国民主権」や「基本的人権」を侵害する「特定秘密保護法」を強行採決・成立させました。さらに、今度はもうひとつの原則「平和主義」を規定した憲法9条を空文化する「解釈改憲による集団的自衛権行使容認」「国家安全保障基本法強行」へと踏み込もうとしています。このままでは、日本は、「地球の裏側」まで、場所を問わず戦争に参加できる国となります。

早ければ今夏にも「解釈改憲」と閣議決定による「集団的自衛権行使」容認を強行することが予想されます。この動きに断固反対する世論醸成に向け、安倍首相に対する「戦争をさせない全国署名」運動をすすめます。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

第1次署名締め切り：5月31日

署名用紙に記載の「送り先住所」にお送りください。

<署名についてのご注意>

- ・この署名は日本にお住まいの方であれば、年齢・国籍を問わず署名できます。
- ・署名は原則的に自筆でお願いします。ただし、自筆で書けない事情があり、ご本人の承諾があれば、代筆も可能です。
- ・署名用紙はコピーしていただいてもかまいません。
- ・署名用紙はウェブサイト <http://anti-war.info/shomei> からダウンロードできます。
- ・事務局にご連絡をいただければ、署名に必要な資材（署名用紙、チラシなど）は必要枚数お送りします。
- ・「取り扱い団体」欄は、必要な方以外は空欄のままでかまいません。
- ・お送りいただく際は署名済み用紙そのものを、封書でお送りください。コピーをとったものや、FAXでの送付は無効です。
- ・いただいた署名は、政府へ提出する以外の目的では、使用いたしません。
- ・そのほか、ご不明な点がありましたら、事務局までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

戦争をさせない1000人委員会 事務局

101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

<http://anti-war.info> mail: info@anti-war.info tel: 03-3526-2920 fax: 03-3526-2921